

なぜ剣道と向き合っているのか

長崎県

波佐見弘道館

小学6年 中尾善仁

「剣道は難しいです。だから面白い」

ぼくの好きな指導者の先生が、ある日の礼式で言いました。この言葉がわかるようになるのはいつだろう。

ぼくは小学一年生の秋、バラエティー番組の剣道対決を観たのをきっかけに、剣道を学ぶようになりました。稽古に通う日々、どんどん楽しくなってきた、同時に強い剣士になりたいという思いも強くなりました。

「毎日10分間の朝練」

母と色んな剣道の本読みましたが、「道場以外での10分間が大事」ということに共感しました。母と弟と三人で過ごす朝の10分間。素振りやラダー、体幹トレーニングなど、心が折れそうになる日もたくさんありましたが、色んな感情を三人で乗り越えて、毎日毎日取り組みました。

「継続は力なり」

小学二年生の夏からスタートした朝練も月日が立ち、丸4年が立ちました。

それは、ぼくの小学校生活の中で一番がんばったことだと胸を張って言えます。そして、それを通してあきらめない心と強い体を得ました。試合で負けても良い内容の結果を残せるようにもなりました。すぐに結果は出ませんが、地道に成果を積み重ねていって、遅かれ早かれきっと自分の力になるのだと思いました。

六年生になり、キャプテンとして道場に通うようになりました。ぼくの学校での生活といえば、学級委員長になるタイプでもなく、友達と遊んだり、勉強したり、外に出て体を動かしたりすることが好きな、ごく普通の男の子です。しかし道場では、ぼくがキャプテンです。皆をまとめることの大変さを学びました。稽古中、皆が号令を聞かないでふざけているときは、いやな気持ちになり、「キャプテンはいやだ」と思うときがあります。いやな時ばかりではないですが、ぼくは、剣道が好きです。キャプテンという「経験」それは、ぼくにとって貴重な経験をさせてもらっているのだなあと実感します。人の立場に立って物事を考え、その人にどう接すればいいのか考えられるようになったからです。

「礼儀作法を日常でも心がけること」

試合場には、礼をして入ります。それは剣士にとって当たり前のことで、驚くことでもありません。しかし、普段の生活の中での挨拶、そして姿勢などがしっかりできているかといえば、自信がない時があります。道場以外での礼儀作法。生活態度。心がけていればぼくの通う道場の先生のように、自然と美しくなれると信じています。

言葉を並べてみると、剣道を学んで約五年間。自分でも驚くほど多くを学び、多くを経験し、体験し、体全身で感じています。学校での勉強中や習字の稽古中その他、習い事の中で、それぞ

れの先生方と学び、伸ばしていく中、今この成績があるのは、今までの自分があるからです。

剣道では技を学びます。何度も何度も同じことを言われ、何度も試します。試合でも技を出します。少しの気のゆるみで、一瞬で打たれます。習い事や遊びの中では決して経験できません。

「剣道は難しいです。だから面白い」

ぼくが剣道と向き合っているのは、この言葉があるからかもしれません。

指導者の先生方と仲間とそしてこれから出会う剣友を大切に思い、また稽古にはげみます。